

2014年冬、種子島宇宙センターから打ち上げ予定 小惑星探査機「はやぶさ2」の機体が公開



JAXA 相模原キャンパスで公開された「はやぶさ2」本体 ©JAXA

2種類の円形の通信用アンテナや改良されたイオンエンジンなどを搭載した「自信作」が完成

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は8月31日に、小惑星探査機「はやぶさ2」の機体を相模原キャンパス(神奈川県相模原市)で公開しました。

「はやぶさ2」は小惑星イトカワから微粒子を採取し地球に帰還した「はやぶさ」の後継機です。本体には太陽電池パネルや地球との通信を行うアンテナ、小惑星から回収したサンプルを入れて地球へ帰還するカプセルなどが取り付けられており、ほぼ完成形に近づいているとのこと。

「はやぶさ2」は2014年冬に打ち上げられ、イトカワとは異なるタイプである水や有機物を含んだ岩石があると見られる小惑星「1999JU3」から地中の物質を持ち帰り、2020年地球帰還を目指しています。

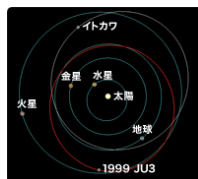
なぜ「はやぶさ2」に取り組むのか？

1) 「はやぶさ」を改良し、より確実に地球へサンプルを持ち帰る技術を確認する

「はやぶさ」は『小惑星の表面からサンプルを地球へ持ち帰るための技術を試す試験機』でした。「はやぶさ」で起こったさまざまな問題点を改良し、『小惑星を科学的に調べる探査機』として本番の探査に臨みます。

2) 水や有機物を含む小惑星を調べることによって地球や生命の起源を探る

「はやぶさ2」が目指すのはC型と呼ばれる小惑星です。イトカワ(S型)と同様C型も岩石質ですが、有機物や水をより多く含んだものと考えられています。太陽系空間にある有機物や水がどのようなものか、地球上の生命や海水との関係はどうか、等を探ります。

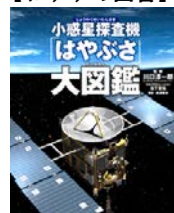


「はやぶさ2」では小惑星の表面に衝突体をぶつけて人工的にクレーターをつくり、地中の岩石のかけらを持ち帰るといった新たな挑戦も行う予定です。

さらに詳しく知りたい方はコチラ

「はやぶさ2」(月探査・プログラムグループ)
<http://www.jspec.jaxa.jp/activity/hayabusa2.html>

【おすすめ図書】「はやぶさ」大図鑑



監修：川口淳一郎
発行：偕成社
定価：3,024円
ISBN：978-4-03-533710-2
「はやぶさ」にまつわる
すべてがわかる一冊です！

Spacei 宇宙かわら版 2014年9月9日号

問い合わせ先：Spacei事務局(財団法人日本宇宙フォーラム)

ホームページ：<http://www.spaceinfo.jp/> お問い合わせ：https://www.science-event.jp/event/spacei_contact/

※特に断りのない限り日付は日本時間です。画像の出典：JAXA/池下章裕